



図Ⅱ.5-21 宮崎県日南市栄松ビーチの調査地点



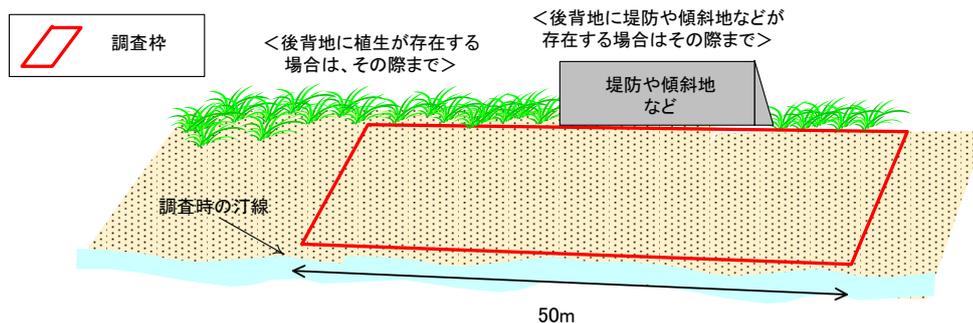
写真Ⅱ.5-10 宮崎県日南市栄松ビーチの調査地の衛星画像

5.2.3 モニタリング調査の方法

平成 27 年度調査と同じモニタリング調査のガイドライン（調査方法）に従って調査した。モニタリング調査のガイドラインを図Ⅱ.5-22 に、漂着物の分類表を表Ⅱ.5-12 に示す。5.3 調査結果では、表Ⅱ.5-12 の分類をもとに人工物、漁具及び自然物の分類を行っている。

1 サンプル単位（汀線方向の幅）

海岸の調査時の汀線から海岸の后背地までの間を対象とし、サンプル単位（汀線方向の幅）として 50m を基準とするが、調査実績等から十分な結果を得ることができるサンプル単位が把握できれば、その範囲で実施する。調査範囲は、GPS などを用いて測定し、範囲を再現できるようにすること。



2 サンプル頻度

調査頻度は、年 1 回とする。

3 サンプル方法

調査では、長さが 2.5cm 以上のごみを全て回収する。調査範囲に植生等がある場合は、植物類をむやみに引き抜いたり、植生内にむやみに立ち入らないよう配慮する。特に環境保全上の価値が高い動植物等が確認された場合は、その取り扱いに留意する。また、調査範囲が自然公園に含まれる場合には、「自然公園法」等の関連諸法令を遵守する。

調査時に記録すべきデータの例は以下のとおり。

- ・ 調査日時
- ・ 調査開始時間及び終了時間
- ・ 最後に対象範囲が清掃された日付（調査の一環、又は他の海岸管理プログラムによって）
- ・ 調査対象となった海岸の長さ
- ・ 調査時の海岸の幅（当時の潮位から海岸の后背地まで）
- ・ 調査参加人数
- ・ 動かすことができない大きな漂着物 など

4 ごみの分類方法

第 1 期モデル調査の分類リスト（表Ⅱ.5-12）を基本とした分類リストを作成し、これに従って回収したごみを分類する。また、原則として海藻類は対象としない。

5 ごみの定量方法

分類した漂着ごみは、大項目毎に重量と容量を測定する。容量は漂着ごみをごみ袋やバケツ等に入れた「かさ容量」で測定する。また、小項目毎に、個数、重量を測定し、記録する。なお、回収中に破損等により個数が変化してしまう人工物の破片（プラスチック類の破片、発泡スチロール類の破片）及び灌木については、個数の計測はせず、重量のみを測定する。

6 記録表

調査時には、以下の 3 種類の記録表を用いることとする。また、調査対象地点における漂着物の状況を記録するため、写真撮影を行う。

・調査地点特性の記録表 ・ごみの特性の記録表 ・大きな漂着物の記録表

7 品質保証・品質管理

回収調査を実施するにあたっては、調査マニュアルを作成し、調査関係者に対し調査手法を周知・徹底する。

8 回収したごみの適正な処理

回収したごみは、調査主体自らの責任において、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、地元自治体の廃棄物処理計画や指導に従って適正に処理を行う。

図Ⅱ.5-22 モニタリング調査ガイドライン

注：プラスチック類の破片、発泡スチロール類の破片及び灌木については、回収中に破損或いは折れる等して個数が変化するため、個数の定量化が困難であることから個数は計測しない。

表 II. 5-12 漂着物の分類表

環境省モニタリング調査分類リスト 品目分類		コード
プラスチック		
1	ボトルのキャップ、ふた	0101
2	ボトル<2L	
	飲料用(ペットボトル)<2L	0201
	その他のプラボトル<2L	0207
3	ボトル、ドラム型、燃料用&バケツ、ポリタンク≥2L	
	飲料用(ペットボトル)≥2L	0301
	その他のプラボトル≥2L	0307
4	ストロー、フォーク、スプーン、マドラー、ナイフ	0400
6	食品容器(食器、食品容器、トレイ、調味料容器等)	0600
7	ポリ袋(不透明&透明)	0700
10	ライター	1001
11	たばこ吸殻(フィルター)	1101
12	シリンジ、注射器	1201
14	パイ	1401
17	漁具(ルアー、トラップ&つぼ)	
	アナゴ筒(フタ、筒)	1703
	カキ養殖用パイプ(マメカン、約2cm未満)	1706
	カキ養殖用パイプ(約2cm以上)	1707
	カキ養殖用コード	1708
	その他の漁具	1709
19	ロープ	1901
20	漁網	2001
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	2401
	苗木ポット	2403
	シートや袋の破片	2406
	プラスチックの破片	2407
	ウレタン	2412
24	その他(具体的に)	2414
77	点滴バッグ	7709
発泡プラスチック(発泡スチロール)		
26	カップ&食品容器	2600
27	パイ	2701
	発泡スチロールの破片	2901
29	その他(具体的に)	2903
布		
30	服、帽子、軍手、タオル、バッグ等	3001
	布片	3502
35	その他(具体的に)	3501

- 人工物
- 漁具
- 自然物

環境省モニタリング調査分類リスト 品目分類		コード
ガラス&陶器		
36	建材(レンガ、コンクリート、パイプ)	3600
37	容器	
	飲料用容器	3702
	その他の容器(食品用、化粧品、薬品、農業等)、つぼ	3703
38	食器(皿&カップ)	3800
39	電球、蛍光灯	3901
42	ガラス又は陶器のかけら	
	ガラス破片	4201
	陶磁器類破片	4202
43	その他(具体的に)	4301
77	バイアル、アンプル	7707
金属		
44	食器(皿、カップ、ナイフ)	4401
45	ふた、キャップ	4501
46	アルミの飲料缶	4601
47	スチール製飲料用缶	4700
48	その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等)	4800
50	漁業関係(おもり、ルアー、針、トラップ&つぼ)	5000
51	金属片(ワイヤー、針金、アルミホイル、金網等)	5101
53	その他(具体的に)	5300
紙&ダンボール		
56	食品包装容器(紙コップ、紙皿、食品包装材、飲料用パック等)	5600
	紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	5805
58	その他(具体的に)	5801
ゴム		
60	靴(サンダル、靴底含む)	6001
62	タイヤ、タイヤのチューブ、ゴムシート	6201
	ゴムの破片	6602
66	その他(具体的に)	6601
木(木材等)		
70	木材(物流用パレット、木炭等含む)	7000
72	その他(具体的に)	7201
その他		
75	電化製品&電子機器	7501
	陸生動物の死骸等	7701
	オイルボール	7705
77	その他(具体的に)	7704
自然物		
78	灌木(植物片を含む、直径10cm未満、長さ1m未満)	7801
	流木(直径10cm以上もしくは長さ1m以上)	7802

5.3 調査結果

5.3.1 調査地ごとの結果

(1) 北海道稚内市抜海海岸

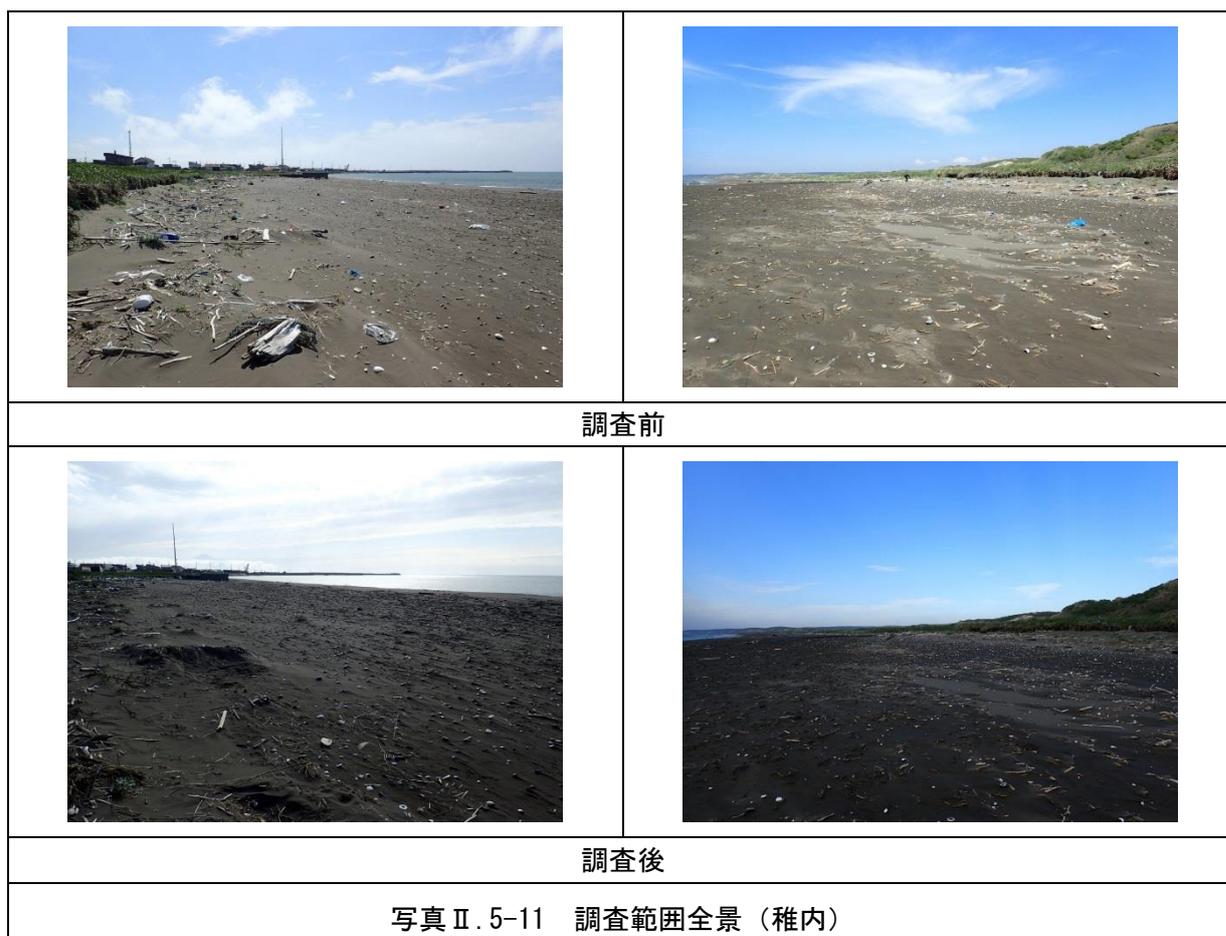
対馬海流の下流域にあたる、北海道稚内市抜海海岸において調査を行った。調査地の全景を写真Ⅱ.5-11に示す。調査時期は5月30日である。南北に長い砂浜海岸で、海水浴場等としての整備は行われておらず、海岸管理者の北海道宗谷総合振興局によると、流木の大量漂着時などに稚内市の要請に応じて総合振興局が対処することがあるのみで、通常は清掃が行われていない海岸である。

回収した漂着物の例を写真Ⅱ.5-12示す。漂着物の特徴としては、プラスチック製のかごや容器が目立った。

海外からの漂着物の例を写真Ⅱ.5-13に示す。数は少なかったが、中国語表記の瓶や韓国語表記のポリタンクが漂着していた。対馬海流に乗って日本海を経由したごみが、この地点まで一定量漂着していることが示唆された。

漂着物の3分類別の組成を図表Ⅱ.5-1に示す。漂着物の3分類の組成としては、重量ベース及び容積ベースにおいて自然物が50%以上を占める。個数ベースでは人工物が69%であった。

人工物の分類別の組成を図表Ⅱ.5-2に示す。人工物の組成としては、プラスチックの割合が特に高く、重量ベースで73%、容積ベースで94%、個数ベースで72%であった。





写真Ⅱ.5-12 回収した漂着物の例（稚内）

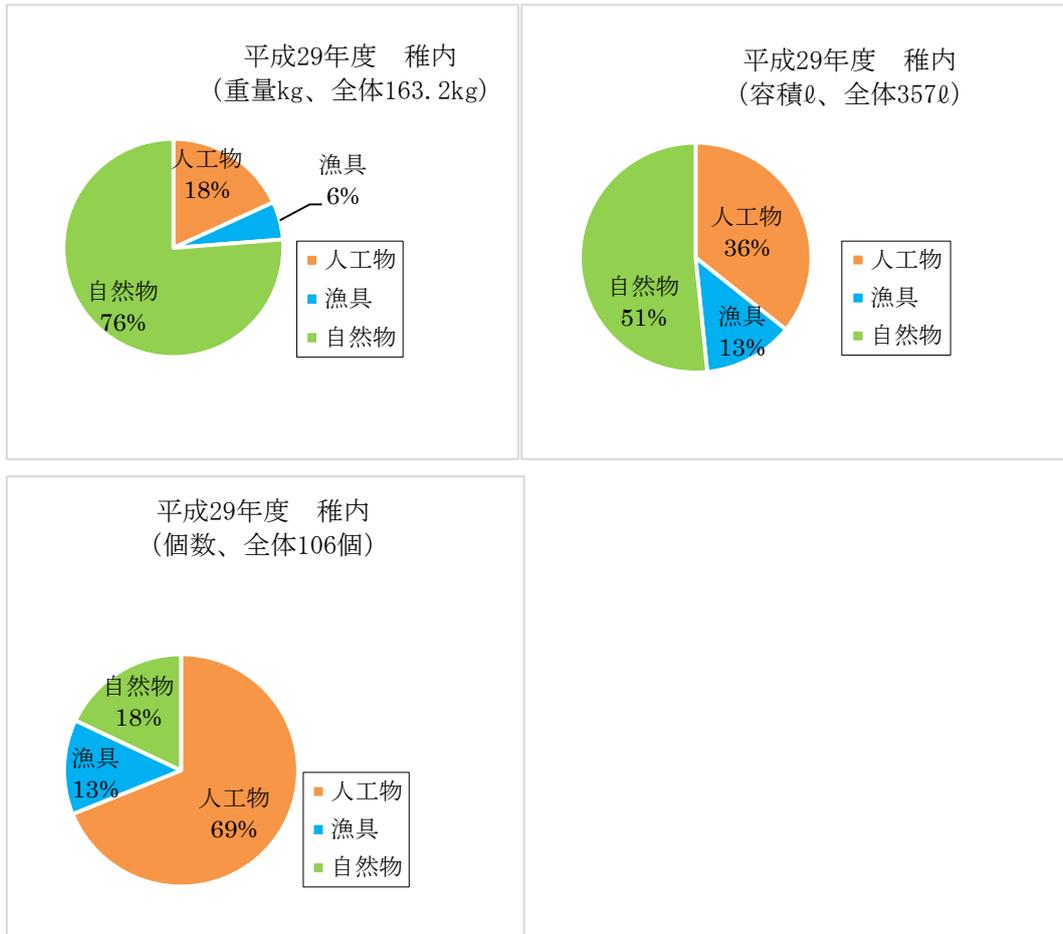


写真Ⅱ.5-13 海外からの漂着物の例（稚内）

図表Ⅱ.5-1 3分類別の組成表と組成比円グラフ（稚内）

項目	重量(kg)	容積(ℓ)	個数(個)
漁具を除く人工物	29.7	128	73
漁具	9.2	45	14
自然物	124.3	184	19
合計	163.2	357	106

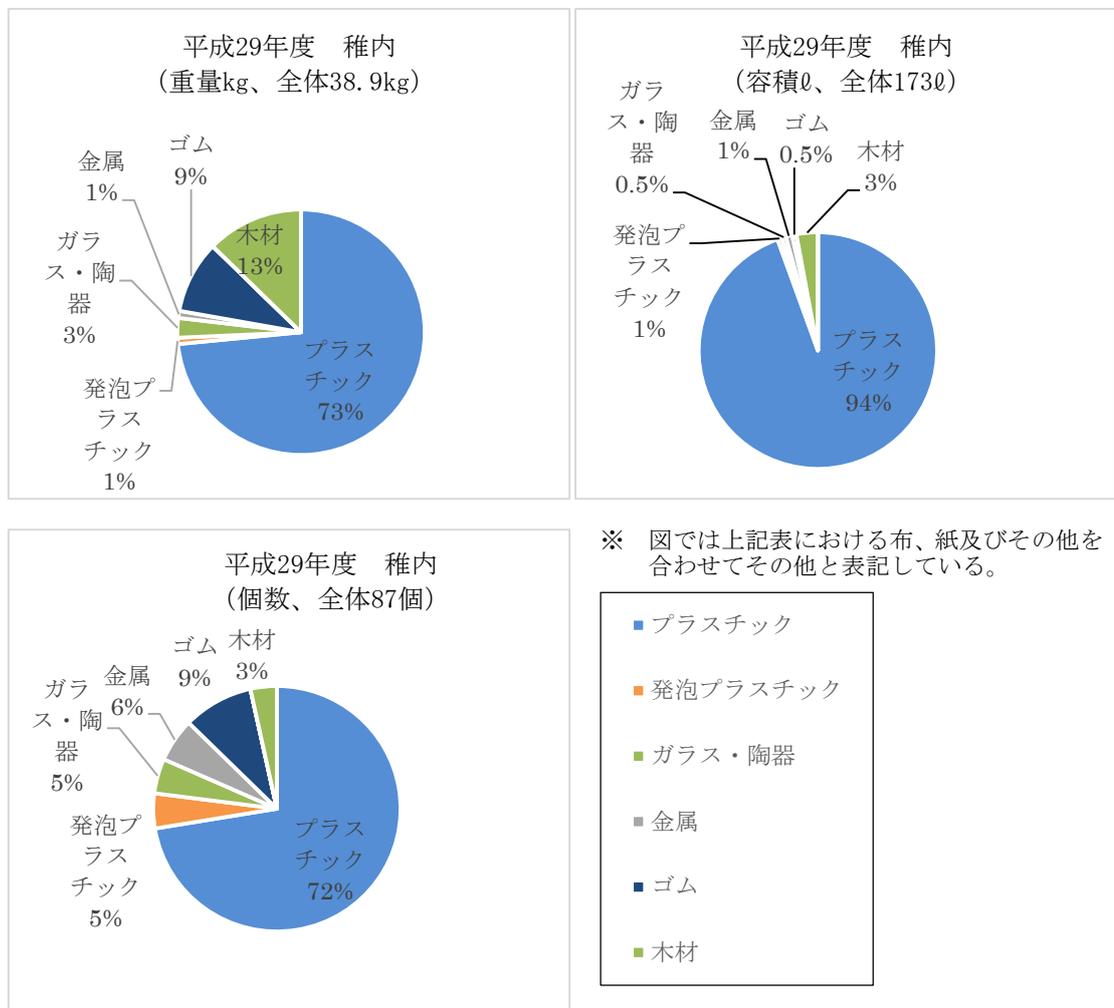
*個数には破片状のものの個数は含まれていない。



図表Ⅱ.5-2 人工物の分類別組成表と組成比円グラフ（稚内）

項目	重量(kg)	容積(ℓ)	個数(個)
プラスチック	28.5	163	63
発泡プラスチック	0.4	1	4
ガラス・陶器	1.0	1	4
金属	0.4	2	5
ゴム	3.7	1	8
布	0.0	0	0
紙	0.0	0	0
木材	4.9	5	3
その他	0.0	0	0
人工物合計	38.9	173	87

*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



(2) 北海道根室市落石海岸

落石岬より南北方向に2kmにわたって続く砂浜海岸である、北海道根室市落石海岸において調査を行った。調査範囲の全景を写真Ⅱ.5-14に示す。調査時期は5月15日である。人の立ち入りはほとんどない海岸であり、海岸管理者の北海道根室総合振興局によると、落石海岸のうち調査を行った落石岬東側の海岸は通常清掃活動が行われていない海岸である。

回収した漂着物の例を写真Ⅱ.5-15 に示す。漂着物の特徴としては、漁網が特に多かったことが挙げられる。その他ではペットボトルなどのプラスチック製品のごみが目立った。

海外からの漂着物の例を写真Ⅱ.5-16 に示す。ロシア語表記の食品包装材が2つ、中国語表記の塗料の缶が1つ漂着していた。

漂着物の3分類別の組成を図表Ⅱ.5-3 に示す。漂着物の3分類別の組成としては、漁具が重量ベースで56%、容積ベースで59%を占めていた。個数ベースでは人工物が77%を占めた。

人工物の分類別の組成を図表Ⅱ.5-4 に示す。人工物では、プラスチックが最も多く、重量ベースで88%、容積ベースで85%、個数ベースで55%を占めていた。



写真Ⅱ.5-14 調査範囲全景（根室）



写真Ⅱ.5-15 回収した漂着物の例（根室）

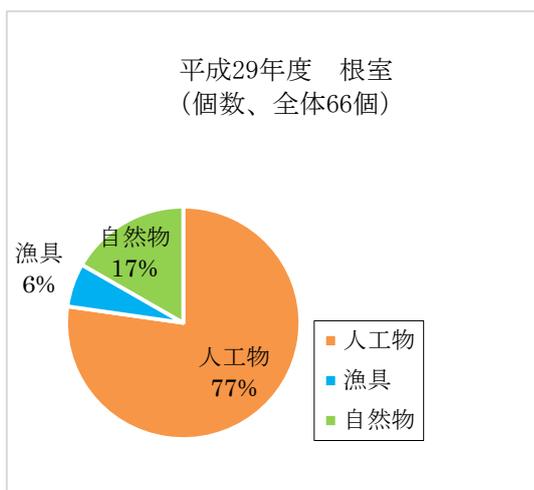
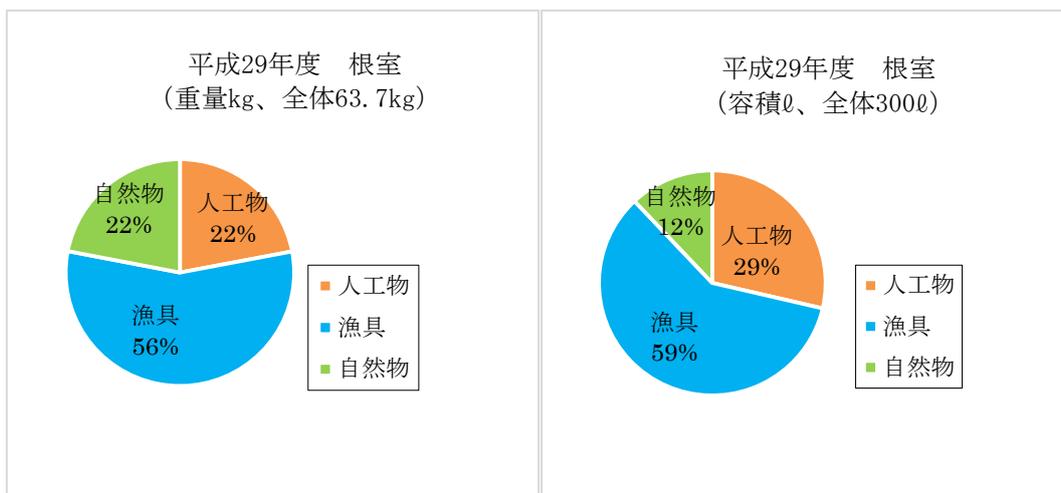


写真Ⅱ.5-16 海外からの漂着物の例（根室）

図表Ⅱ.5-3 3分類別組成表および組成比円グラフ（根室）

項目	重量 (kg)	容積 (ℓ)	個数
漁具を除く人工物	14.0	86	51
漁具	35.7	178	4
自然物	14.0	36	11
合計	63.7	300	66

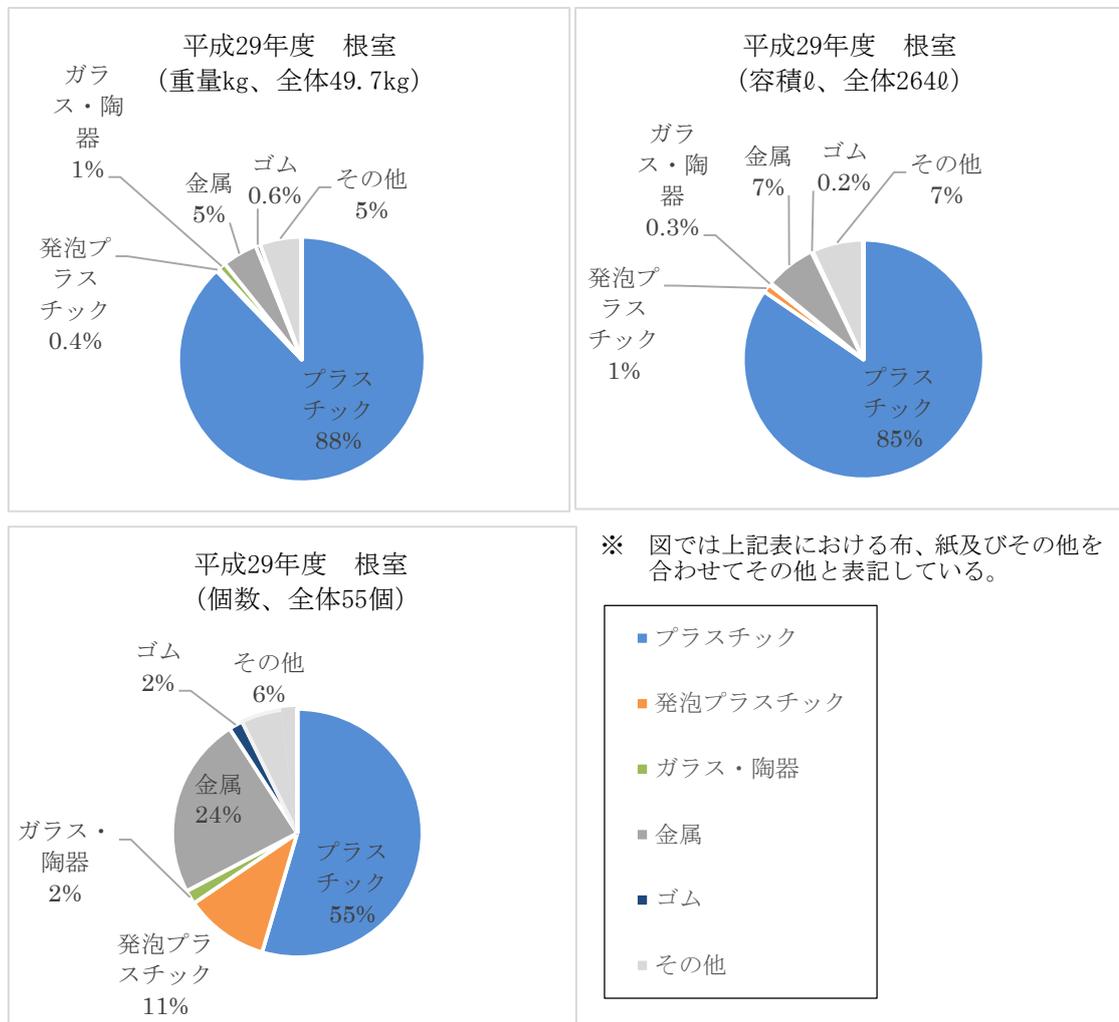
*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



図表Ⅱ.5-4 人工物の分類別組成表と組成比円グラフ（根室）

項目	重量 (kg)	容積 (ℓ)	個数
プラスチック	43.7	223	30
発泡プラスチック	0.2	3	6
ガラス・陶器	0.5	1	1
金属	2.3	18	13
ゴム	0.3	1	1
布	2.7	18	3
紙	0.0	0	1
木材	0.0	0	0
その他	0.0	0	0
人工物合計	49.7	264	55

*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



(3) 北海道函館市古川町海岸

日本海側から太平洋側へ抜ける潮流の影響を受ける地点として、津軽海峡に沿った北海道函館市の砂浜海岸で調査を行った。調査範囲全景を写真Ⅱ.5-17に示す。調査時期は5月22日である。函館市及び北海道渡島総合振興局によると、定期的な清掃活動は行われていない海岸である。

漂着物の例を写真Ⅱ.5-18、写真Ⅱ.5-19に示す。大きな流木が4つ見られた他、空き缶やタイ

ヤが多く見られた。

海外からの漂着物の例を写真Ⅱ. 5-20 に示す。海外からの漂着物は、韓国語表記及び中国語表記の飲料容器やロシア語表記のプラスチック容器の漂着が見られた。東シナ海または黄海沿岸から対馬海流によって津軽海峡までごみが運搬されていることが示唆された。

漂着物の3分類別の組成を図表Ⅱ. 5-5 に示す。大きな流木の漂着があったため、重量ベースで86%、容積ベースで62%が自然物となっているが、個数ベースで見れば91%が人工物である。

人工物の分類別の組成を図表Ⅱ. 5-6 に示す。人工物の組成としては、重量ベースで50%、容積ベースで63%、個数ベースで50%がプラスチックであった。次いでゴム類が重量ベースで36%、容積ベースで20%であるが、これは大小5つのタイヤが漂着していたためである。



写真Ⅱ. 5-17 調査範囲全景（函館）



写真Ⅱ. 5-18 漂着していた流木（函館）



写真Ⅱ. 5-19 回収した漂着物の例（函館）

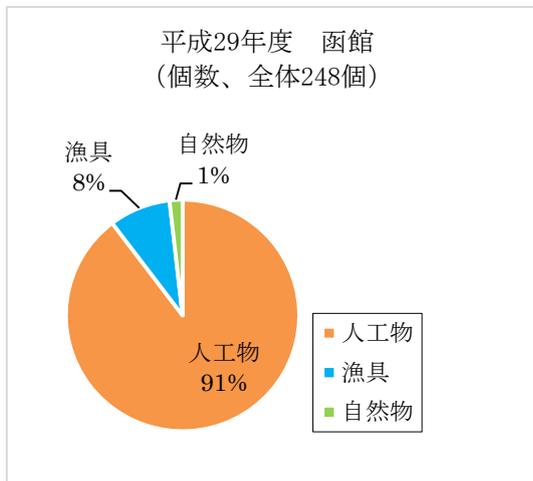
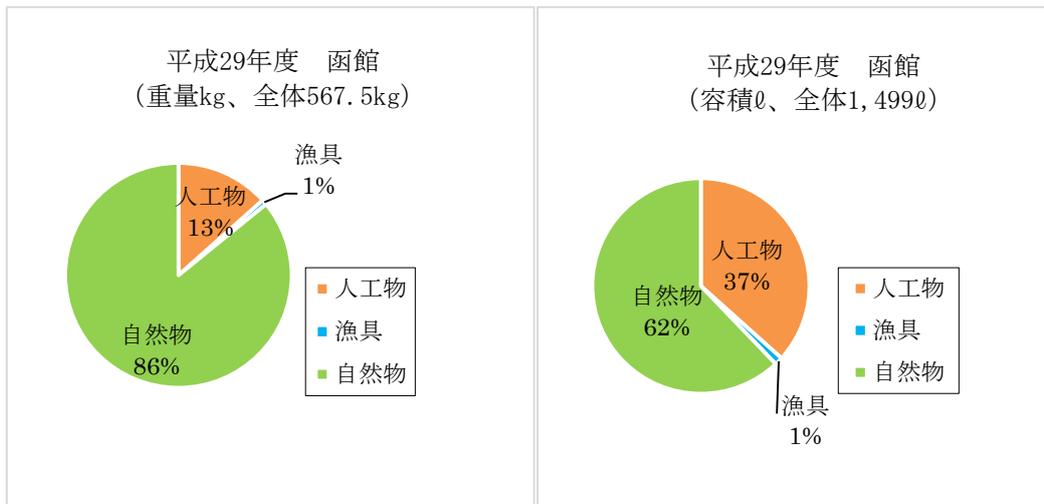


写真Ⅱ.5-20 海外からの漂着物の例（函館）

図表Ⅱ.5-5 3分類別の組成表と組成比円グラフ（函館）

項目	重量 (kg)	容積 (ℓ)	個数
漁具を除く人工物	75.9	551	225
漁具	4.1	18	19
自然物	487.5	930	4
合計	567.5	1,499	248

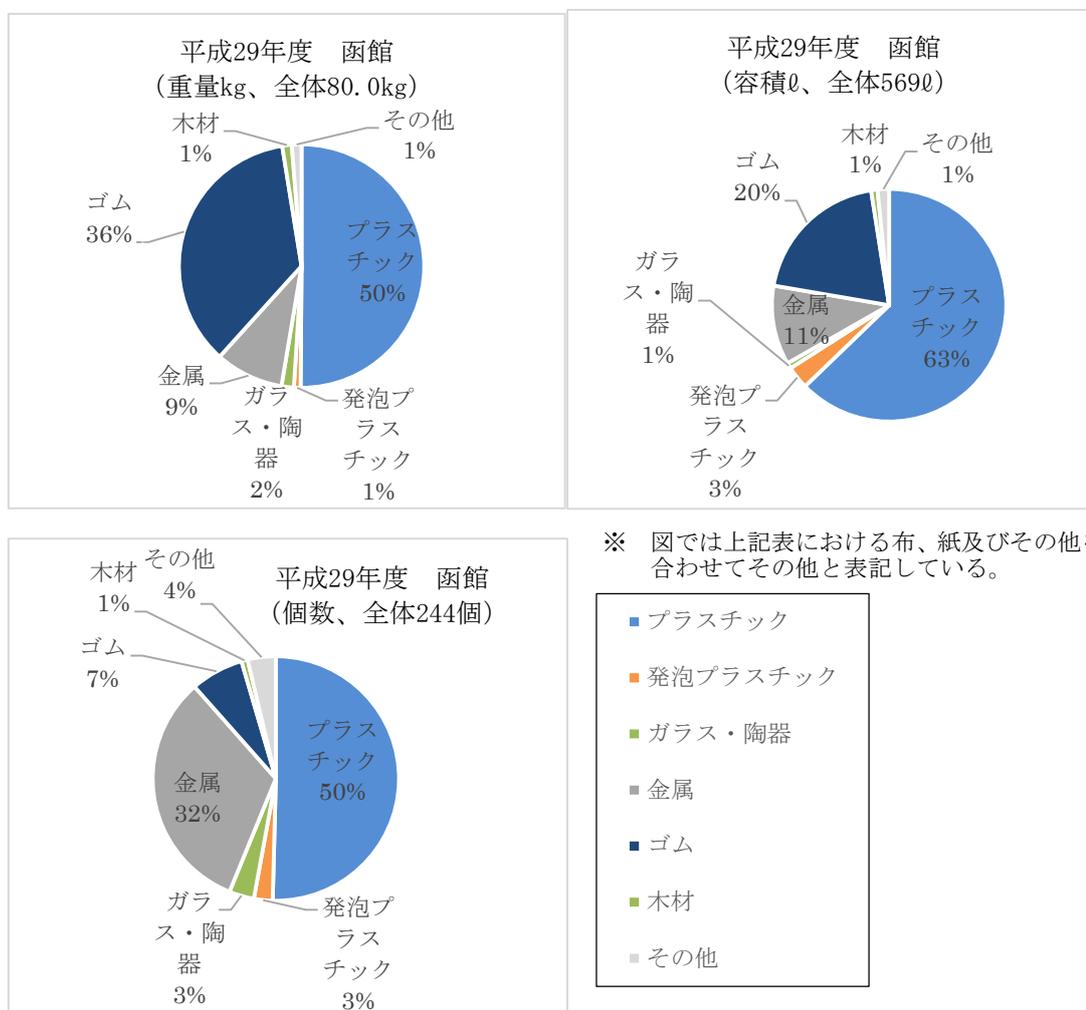
*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



図表Ⅱ.5-6 人工物の分類別組成表と組成比円グラフ（函館）

項目	重量 (kg)	容積 (ℓ)	個数
プラスチック	40.1	356	123
発泡プラスチック	0.7	18	6
ガラス・陶器	1.3	5	8
金属	7.2	63	79
ゴム	28.7	113	17
布	1.0	9	8
紙	0.0	0	1
木材	1.0	5	2
その他	0.0	0	0
人工物合計	80.0	569	244

*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



(4) 青森県東通村尻屋漁港海岸

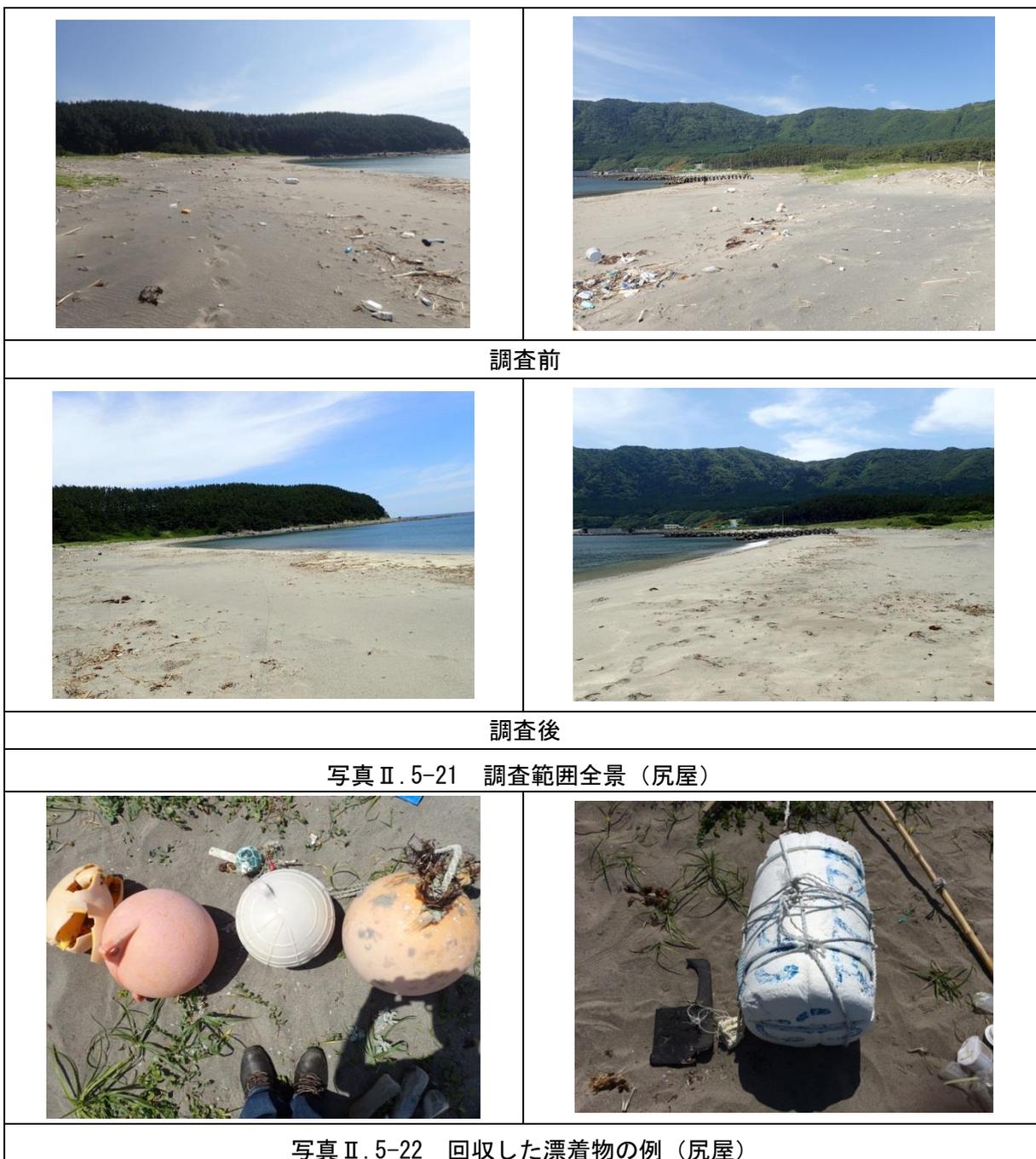
対馬海流下流の影響を受ける調査地として、青森県東通村尻屋漁港海岸において調査を行った。調査範囲全景を写真Ⅱ.5-21に示す。調査時期は7月9日である。漁港の北側に位置する砂浜海岸で、東通村役場によれば、漁港内での清掃を6月に行っており、前回清掃からの期間はおおよそ1か月程度だと思われる。

回収した漂着物の例を写真Ⅱ.5-22 に示す。プラスチックや発泡スチロールのブイが複数見られた。

海外からの漂着物の例を写真Ⅱ.5-23 に示す。海外からの漂着物は、韓国語表記及び中国語表記の食品包装材やロシア語表記のプラスチック容器の漂着が見られた。対馬海流によって運ばれたごみが、津軽海峡を抜けてこの地点に漂着していることが示唆された。

漂着物の3分類別の組成を図表Ⅱ.5-7 に示す。漂着物の3分類別の組成としては、重量ベース及び個数ベースで人工物が最も多く、個数ベースでは83%を占めた。また、容積ベースでは人工物及び自然物の割合は拮抗していた。

人工物の分類別の組成を図表Ⅱ.5-8 に示す。人工物ではプラスチックが重量ベースで66%、容積ベースで55%、個数ベースで71%を占めた。



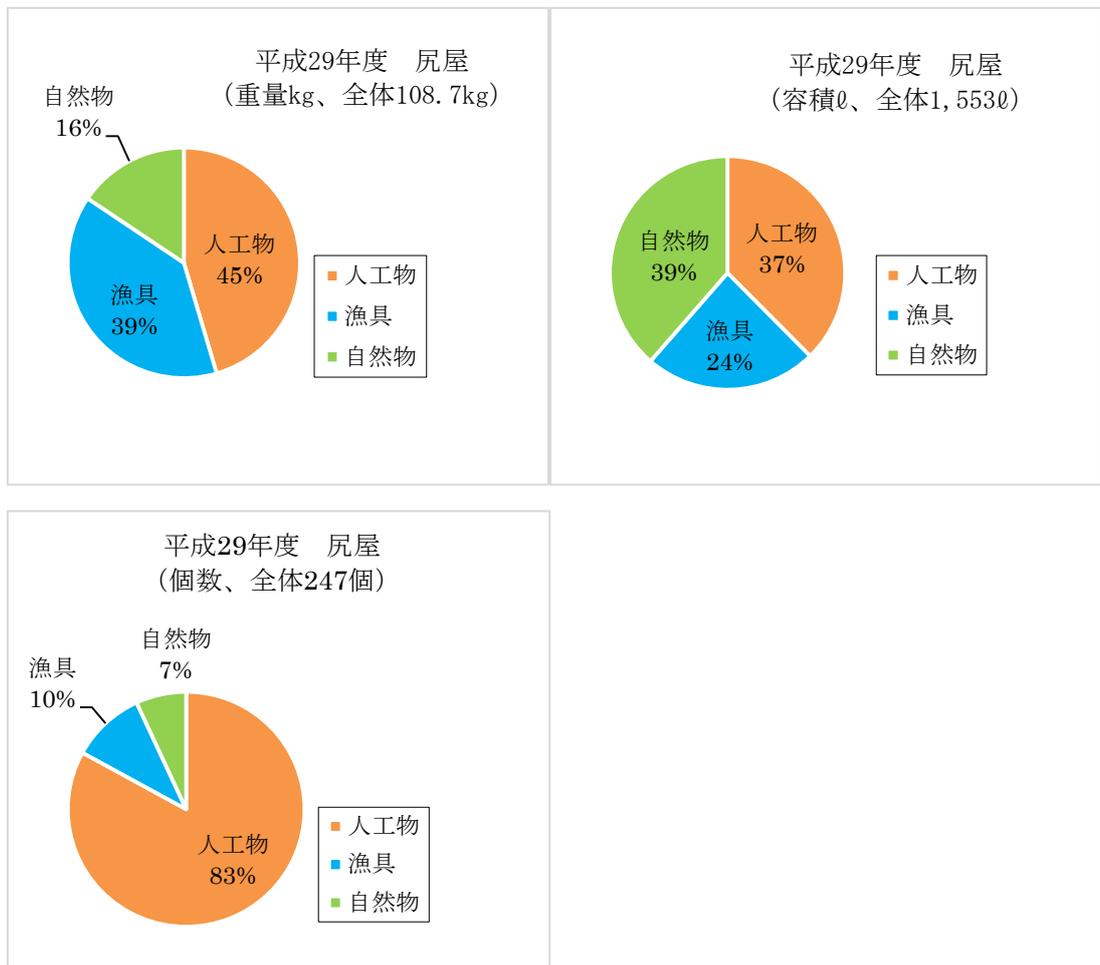


写真Ⅱ.5-23 海外からの漂着物の例（尻屋）

図表Ⅱ.5-7 3分類別の組成表と組成比円グラフ（尻屋）

分類	重量 (kg)	容積 (ℓ)	個数
漁具を除く人工物	49.4	584	205
漁具	42.4	369	25
自然物	16.9	600	17
合計	108.7	1,553	247

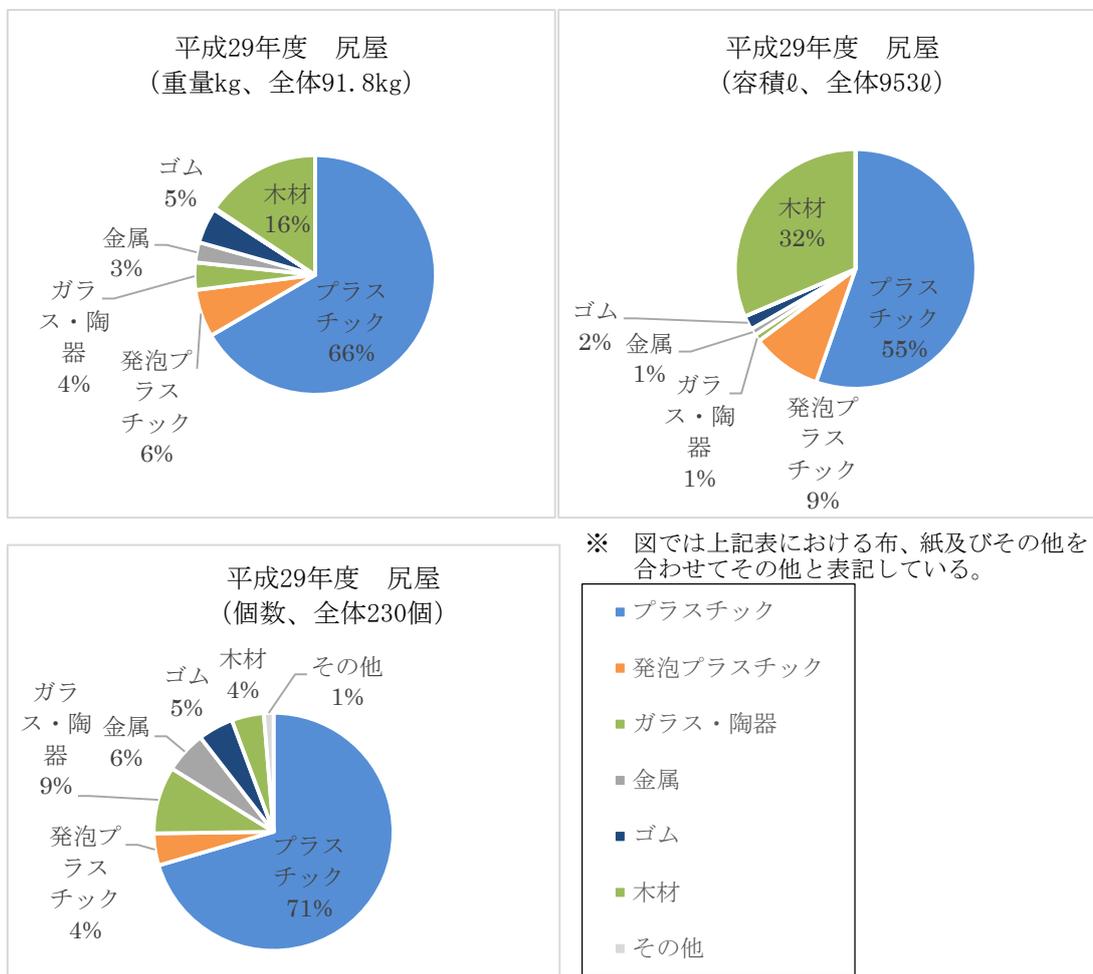
*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



図表Ⅱ.5-8 人工物の分類組成表と組成比円グラフ（尻屋）

項目	重量(kg)	容積(ℓ)	個数(個)
プラスチック	61.1	527	162
発泡プラスチック	5.9	90	10
ガラス・陶器	3.4	9	21
金属	2.5	9	13
ゴム	4.4	18	11
布	0.0	0	0
紙	0.2	0	3
木材	14.3	300	10
その他	0.0	0	0
人工物合計	91.8	953	230

*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



(5) 山形県遊佐町鳥崎海岸

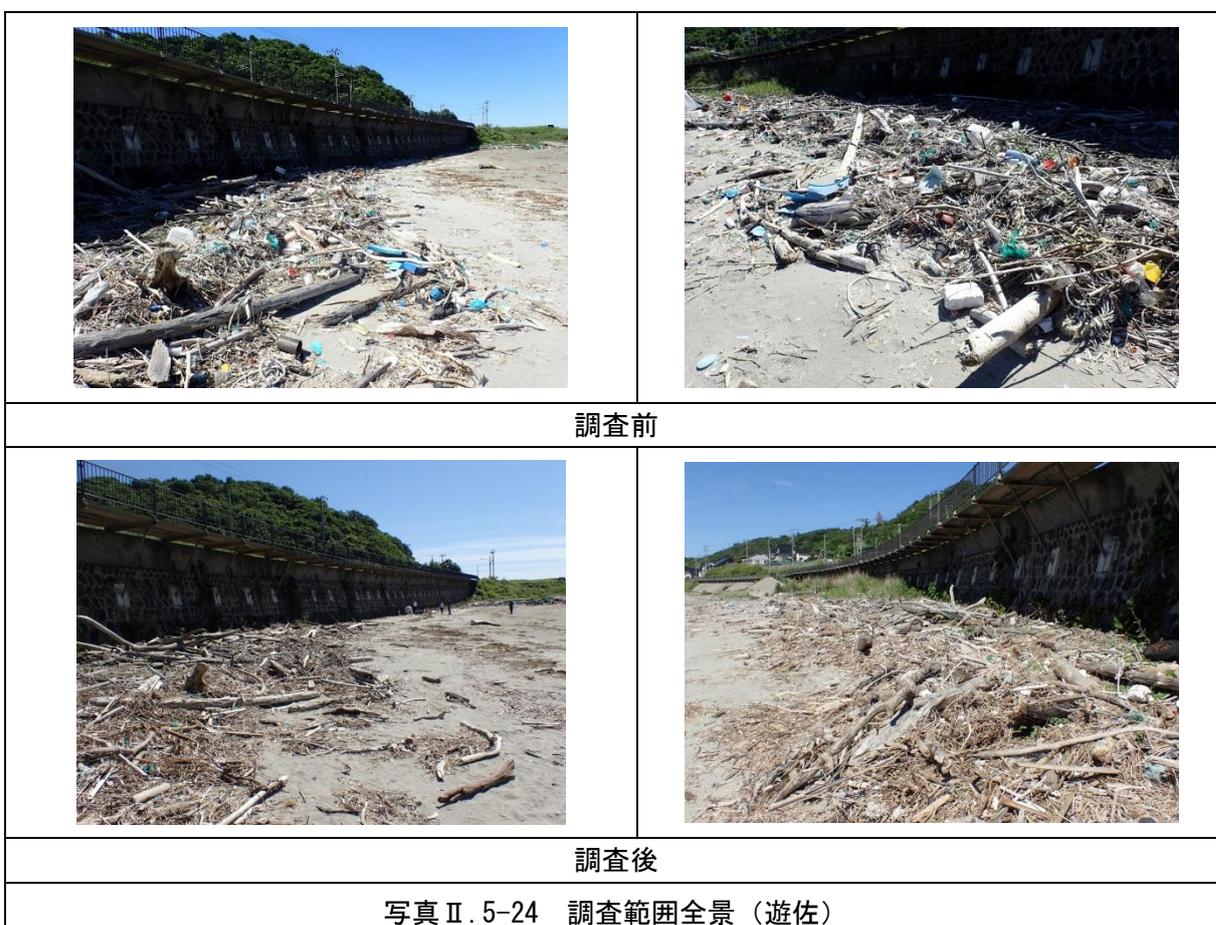
対馬海流中流のモニタリング調査として、山形県庄内地方の遊佐町鳥崎海岸において調査を行った。調査範囲全景を写真Ⅱ.5-24に示す。調査時期は6月7日である。鳥崎海岸は約500mの長さを持つ砂浜海岸である。山形県が把握している範囲では前年の9月に清掃を行っており、前回清掃からの期間は9か月と思われる。本調査地は、流木とプラスチック等の人工物が入り混じり、全国的に見ても極めて回収の難しい調査地点であった。

回収した漂着物の例を写真Ⅱ.5-25 に示す。ペットボトルやプラスチックボトル、アナゴ筒やかご状の漁具の漂着が目立った。

海外からの漂着物の例を写真Ⅱ.5-26 に示す。海外の漂着物については、中国語表記、韓国語及びロシア語表記のプラスチック容器が漂着していた他、韓国語表記のポリタンクが複数漂着していた。東シナ海または黄海沿岸から対馬海流に乗ってこの地点まで一定のごみが漂着していると考えられる。

漂着物の3分類別の組成を図表Ⅱ.5-9 に示す。漂着物の組成としては、重量ベース、容積ベース、個数ベースのいずれも人工物が最も多く、それぞれ52%、60%、62%を占めた。

人工物の分類別の組成を図表Ⅱ.5-10 に示す。人工物の組成としては、プラスチックが重量ベース、容積ベース及び個数ベースで80%以上を占めていた。なお、調査範囲には冷蔵庫が漂着していたが、人工物の組成としてはその他に分類した。





写真Ⅱ.5-25 回収した漂着物の例（遊佐）

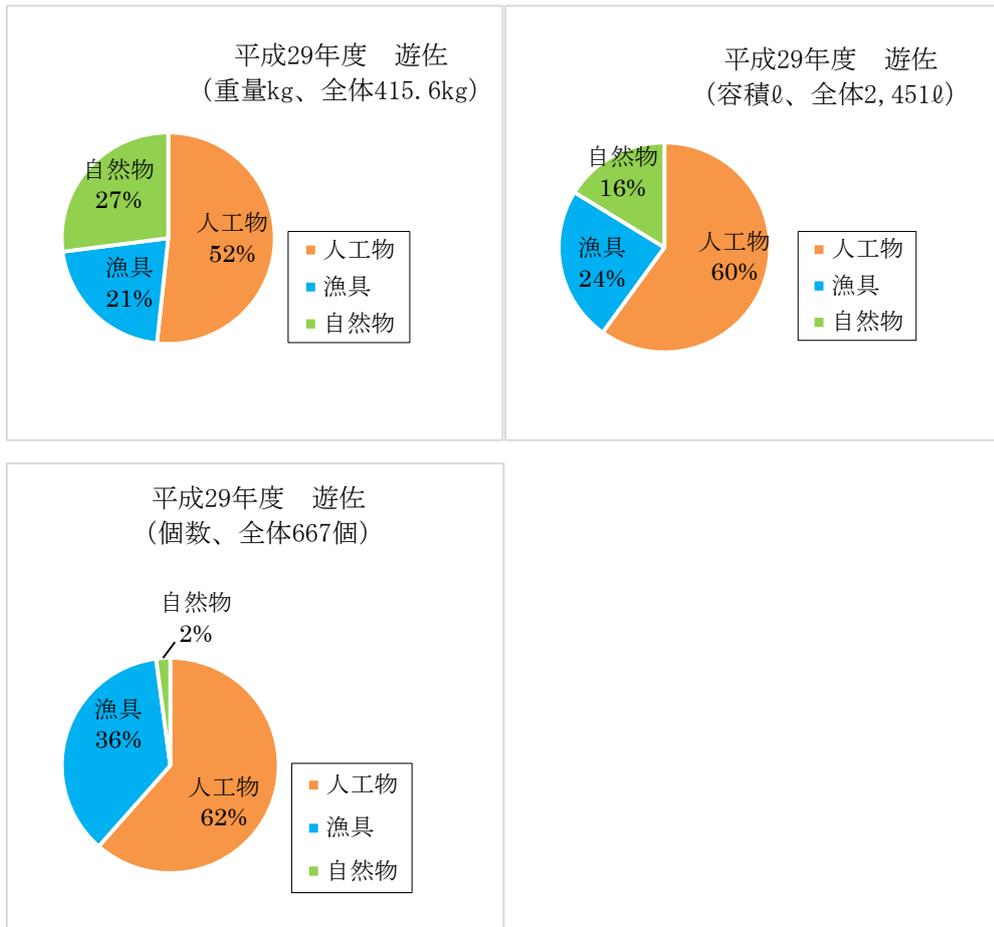


写真Ⅱ.5-26 海外からの漂着物の例（遊佐）

図表Ⅱ.5-9 3分類別の組成表と組成比円グラフ（遊佐）

項目	重量 (kg)	容積 (ℓ)	個数
漁具を除く人工物	214.8	1,469	410
漁具	88.4	585	243
自然物	112.4	397	14
合計	415.6	2,451	667

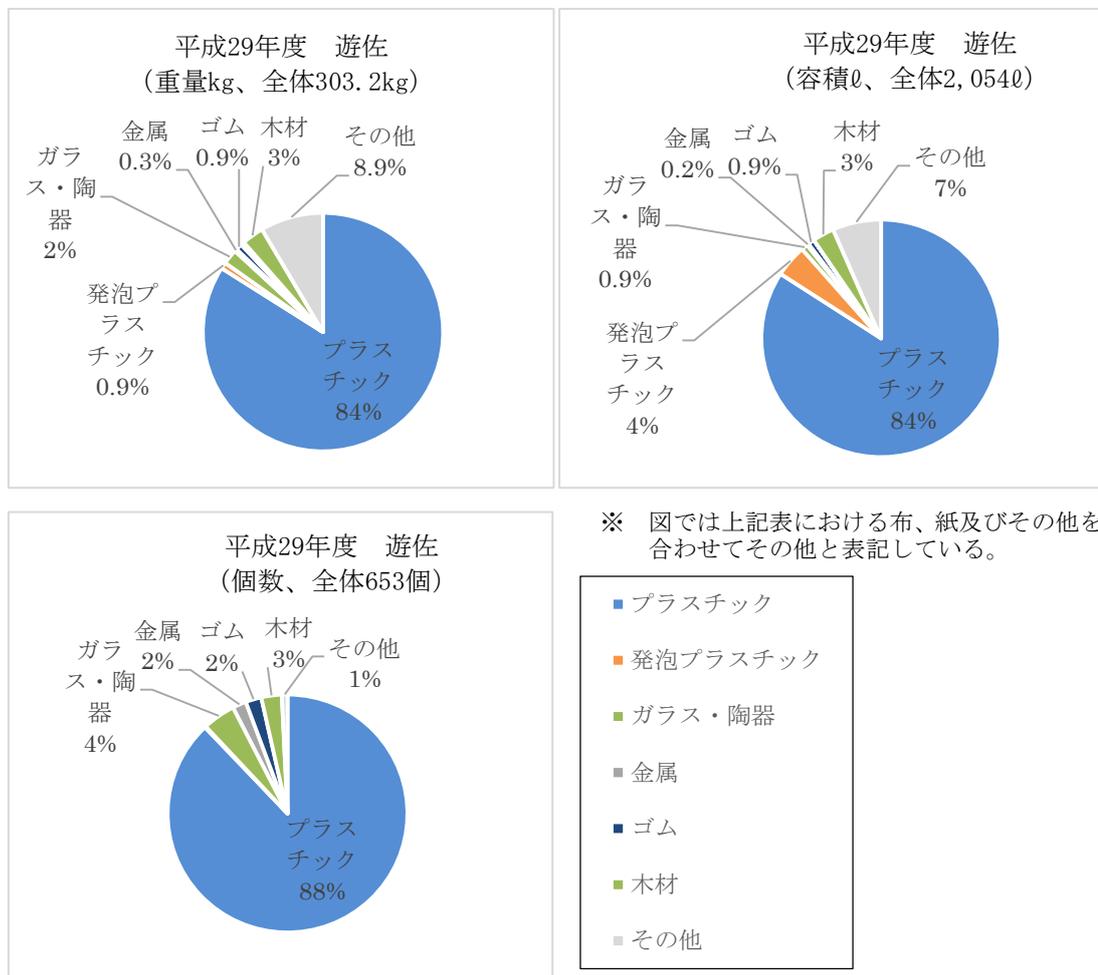
*個数には破片状のものの個数は含まれていない。



図表Ⅱ.5-10 人工物の分類組成表と組成比円グラフ（遊佐）

項目	重量 (kg)	容積 (ℓ)	個数
プラスチック	254.7	1,728	574
発泡プラスチック	2.6	90	1
ガラス・陶器	6.2	18	29
金属	1.0	5	12
ゴム	2.6	18	14
布	1.1	0	0
紙	0.3	0	5
木材	9.0	60	18
その他	25.7	135	0
人工物合計	303.2	2,054	653

*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



(6) 東京都八丈島町

黒潮の影響を受ける調査地として、東京都八丈島町の海岸において調査を行った。調査範囲全景を写真Ⅱ.5-27に示す。調査時期は11月19日である。八丈島には砂浜が存在している海岸はごく一部であり、その多くが岩場や礫浜である。東京都八丈町によれば、9月に清掃を行っている海岸であり、前回清掃からの期間は2か月である。

回収した漂着物の例を写真Ⅱ.5-28に示す。プラスチックや発泡スチロールのブイが多く見ら

れた。

海外からの漂着物の例を写真Ⅱ.5-29に示す。海外からの漂着物は、中国語表記のペットボトルが多数見られた。東シナ海から黒潮に乗って運ばれたごみが漂着していることが示唆された。

漂着物の3分類別の組成を図表Ⅱ.5-11に示す。漂着物の3分類別の組成としては、重量ベース、容積ベース、個数ベースのいずれも人工物が多く、それぞれ45%、53%、81%を占めた。

人工物の分類別の組成を図表Ⅱ.5-12に示す。人工物ではプラスチックが重量ベースで78%、容積ベースで98%、個数ベースで89%を占めるなど、特に際立っていた。



写真Ⅱ.5-27 調査範囲全景（八丈島）



写真Ⅱ.5-28 回収した漂着物の例（八丈島）

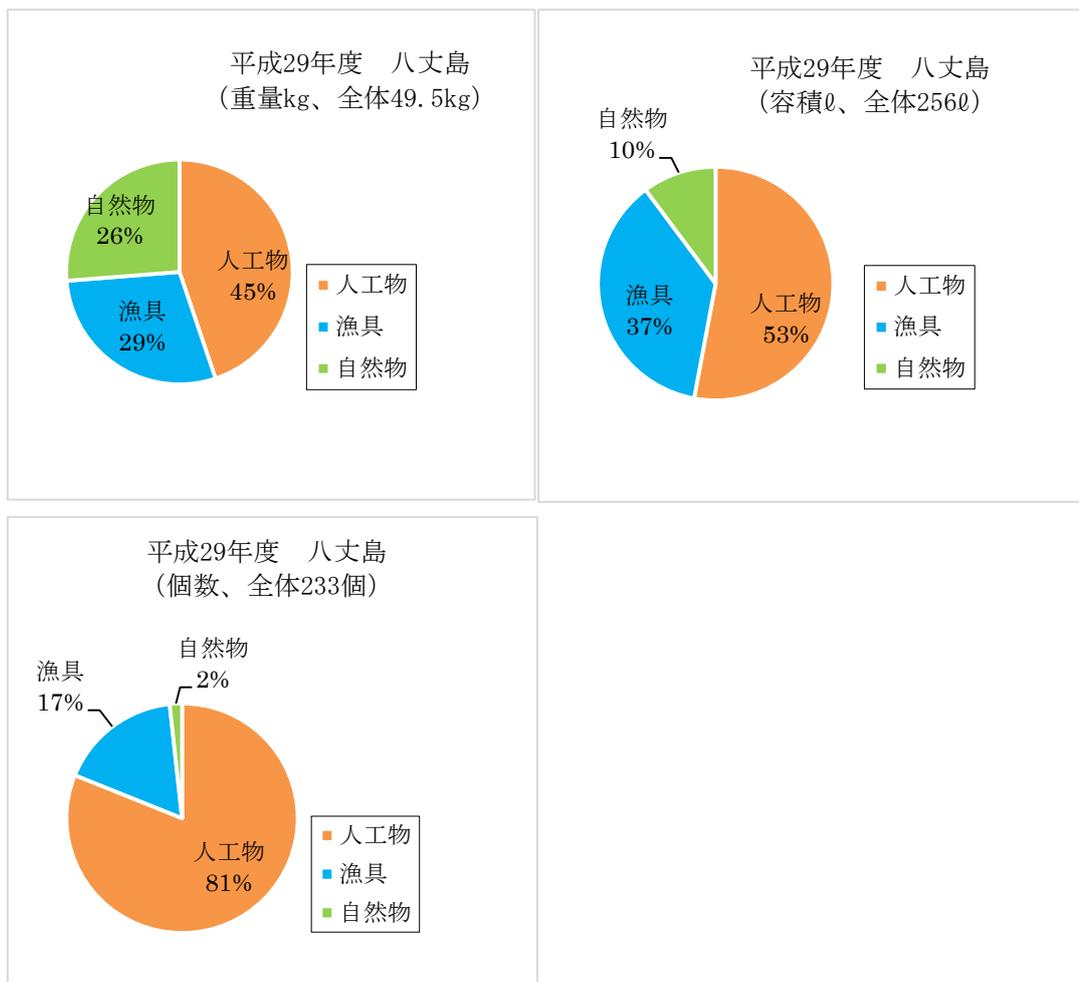


写真Ⅱ.5-29 海外からの漂着物の例（八丈島）

図表Ⅱ.5-11 3分類別組成表と組成比円グラフ（八丈島）

分類	重量 (kg)	容積 (ℓ)	個数
漁具を除く人工物	22.2	136	189
漁具	14.3	95	40
自然物	13.0	26	4
合計	49.5	256	233

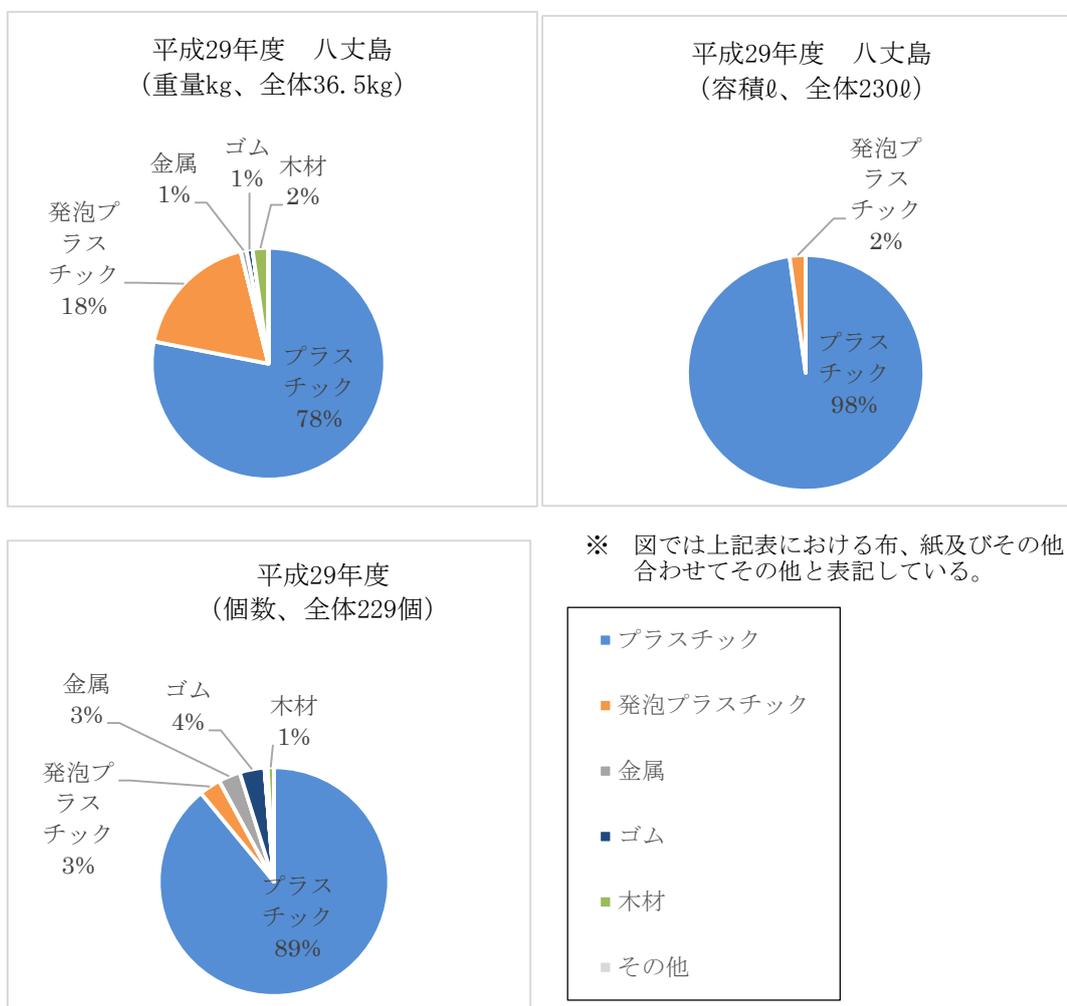
*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



図表Ⅱ.5-12 人工物の分類別組成表と組成比円グラフ（八丈島）

項目	重量(kg)	容積(ℓ)	個数(個)
プラスチック	28.5	225	204
発泡プラスチック	6.6	5	7
ガラス・陶器	0.0	0	0
金属	0.3	-	7
ゴム	0.3	0	8
布	0.0	0	0
紙	0.0	0	1
木材	0.8	-	2
その他人工物	0.0	-	0
人工物合計	36.5	230	229

*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



(7) 兵庫県淡路市松帆海岸

瀬戸内海東部に位置する淡路島北部の兵庫県淡路市松帆海岸で調査を行った。調査地全景を写真Ⅱ.5-30に示す。調査時期は10月17日である。兵庫県によれば、同海岸は2月に清掃を行っているため、前回清掃からの期間は8か月である。

回収した漂着物の例を写真Ⅱ.5-31に示す。発泡スチロールのブイや空き缶が多く見られた。

海外製の漂着物の例を写真Ⅱ.5-32に示す。海外製の漂着物は、中国語表記のスプレー缶やペットボトルが見られたが、調査地が瀬戸内海に位置することを考えると、船舶から投棄されたものである可能性もある。

漂着物の3分類別の組成を図表Ⅱ.5-13に示す。漂着物の3分類別の組成としては、重量ベースで最も多かったのは自然物で61%であった。容積ベース及び個数ベースでは人工物が多く、それぞれ52%、96%であった。

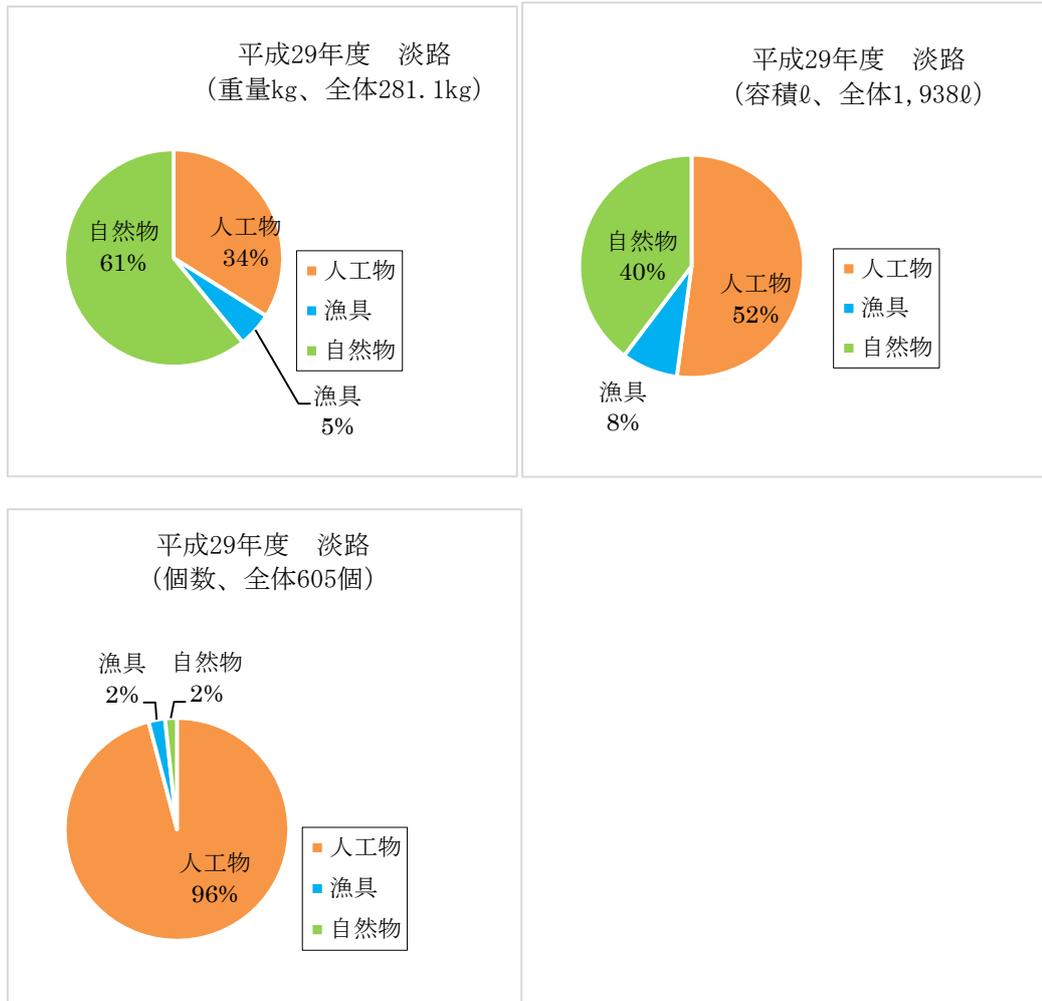
人工物の分類別の組成を図表Ⅱ.5-14に示す。人工物ではプラスチックが重量ベースで51%、容積ベースで55%、個数ベースで68%を占めた。

	
調査前	調査後
写真Ⅱ.5-30 調査範囲全景（淡路）	
	
写真Ⅱ.5-31 回収した漂着物の例（淡路）	
	
カン類	ペットボトル
写真Ⅱ.5-32 海外からの漂着物の例（淡路）	

図表Ⅱ.5-13 3分類別の組成表と組成比円グラフ（淡路）

分類	重量 (kg)	容積 (ℓ)	個数
漁具を除く人工物	95.5	1,010	581
漁具	14.6	158	14
自然物	171.0	770	10
合計	281.1	1,938	605

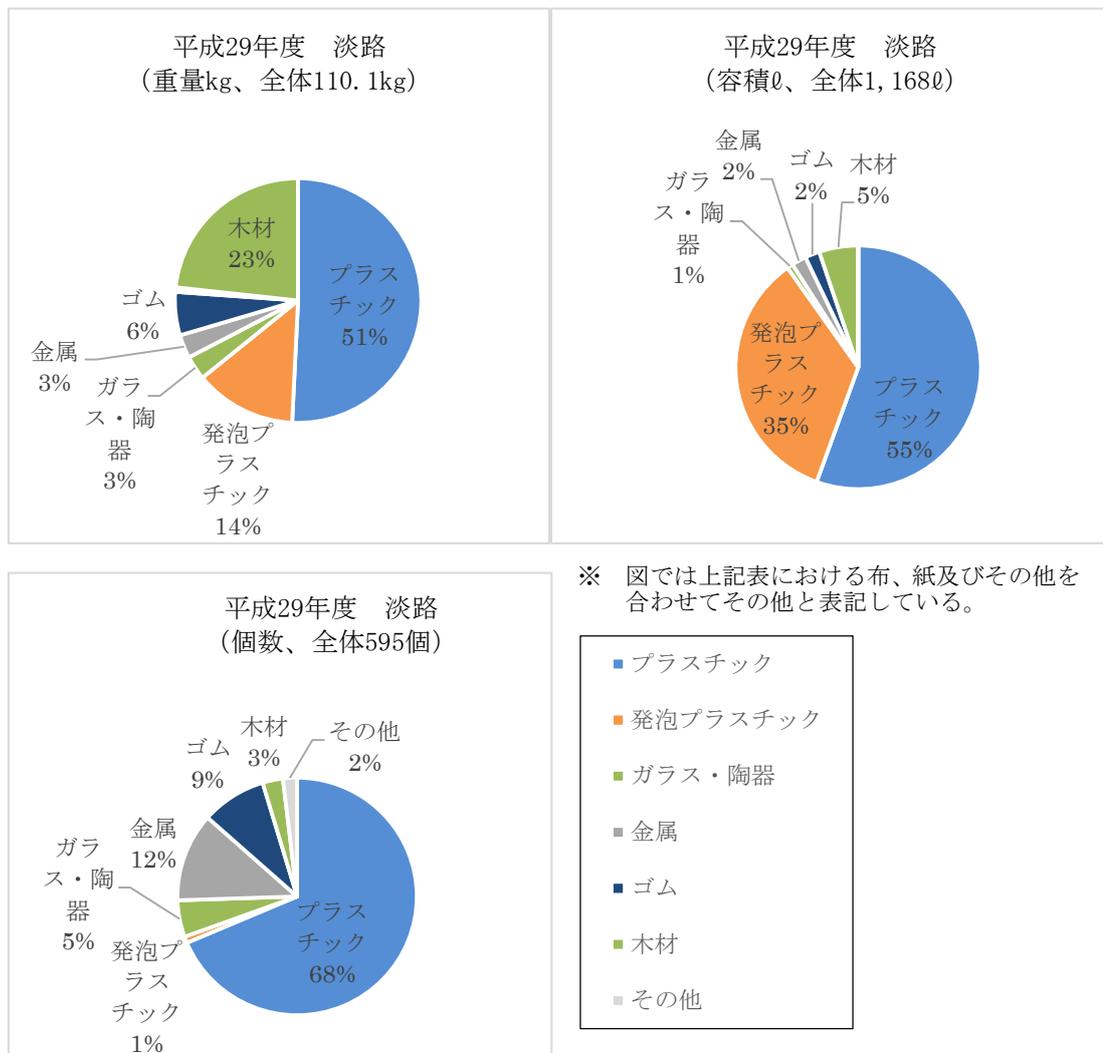
*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



図表Ⅱ.5-14 人工物の分類組成表と組成比円グラフ（淡路）

項目	重量(kg)	容積(ℓ)	個数(個)
プラスチック	55.9	648	413
発泡プラスチック	14.7	405	5
ガラス・陶器	3.5	9	29
金属	3.4	23	70
ゴム	6.3	23	51
布	0.4	0	4
紙	0.3	0	7
木材	25.6	60	16
その他人工物	0.0	0	0
人工物合計	110.1	1,168	595

*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



(8) 島根県松江市古浦海水浴場

対馬海流の影響を受ける調査地として、島根県松江市古浦海水浴場において調査を行った。調査範囲全景を写真Ⅱ.5-33に示す。調査時期は12月15日である。島根県によれば、8月に清掃を行っており、前回清掃からの期間は4か月である。本調査地は冬季には風が強く、風によって海

岸から後背地に飛ばされたと思われる発泡スチロールなどのごみが多数確認できた。(写真Ⅱ.5-34)。

回収した漂着物の例を写真Ⅱ.5-35 に示す。プラスチック容器やアナゴ筒などの漁具が多数見られた。

海外からの漂着物の例を写真Ⅱ.5-36 に示す。海外からの漂着物は、中国語表記及び韓国語表記のプラスチック容器が見られた。

漂着物の3分類別の組成を図表Ⅱ.5-15 に示す。漂着物の3分類別の組成としては、重量ベース、容積ベース、個数ベースのいずれも最も多かったのは人工物で、それぞれ52%、57%、60%を占めた。漁具については重量ベース、容積ベース及び個数ベースで30%以上を占めていた。

人工物の分類別の組成を図表Ⅱ.5-16 に示す。人工物ではプラスチックが重量ベースで69%、容積ベースで82%、個数ベースで82%を占め、特に際立っていた。

	
調査前	調査後
写真Ⅱ.5-33 調査範囲全景(松江)	
	
写真Ⅱ.5-34 調査地周辺の様子(松江)	
	
写真Ⅱ.5-35 回収した漂着物の例(松江)	

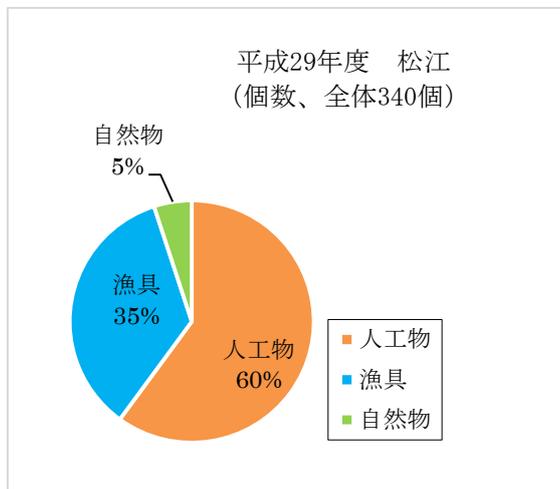
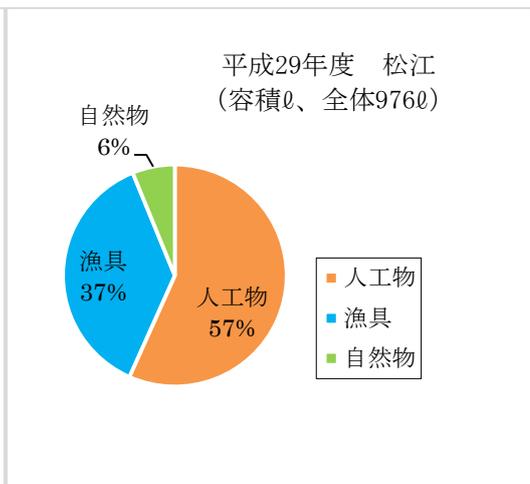
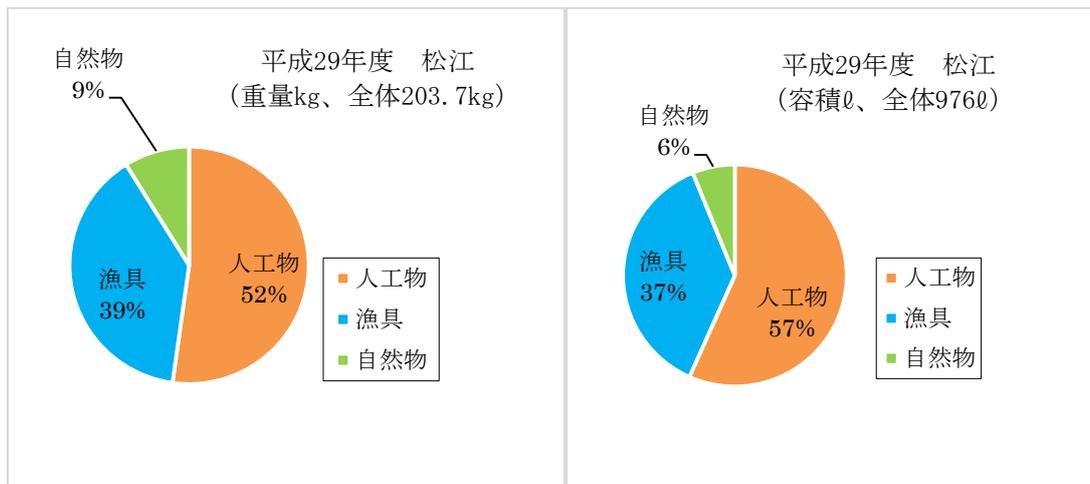


写真Ⅱ.5-36 海外からの漂着物の例（松江）

図表Ⅱ.5-15 3分類別の組成表および組成比円グラフ（松江）

分類	重量 (kg)	容積 (ℓ)	個数
漁具を除く人工物	106.4	553	204
漁具	79.3	363	119
自然物	18.0	60	17
合計	203.7	976	340

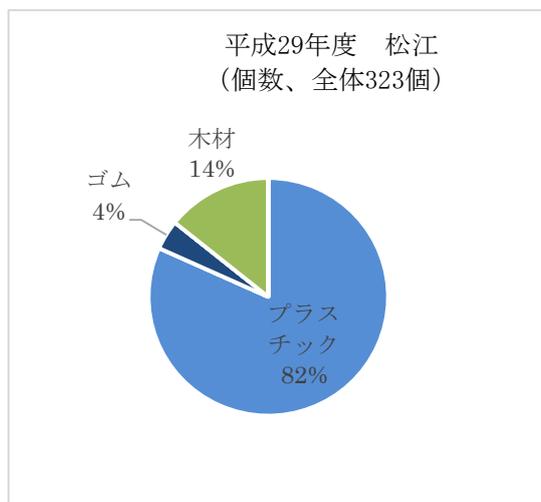
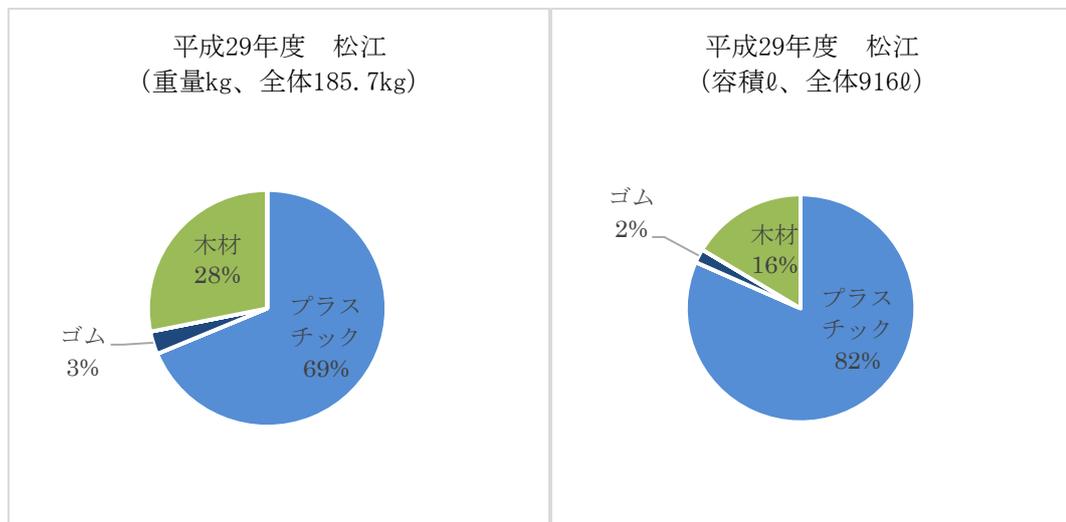
*個数には破片状のもの個数は含まれていない。



図表Ⅱ.5-16 人工物の分類組成表と組成比円グラフ（松江）

項目	重量(kg)	容積(ℓ)	個数(個)
プラスチック	127.6	748	264
発泡プラスチック	0.0	0	0
ガラス・陶器	0.0	0	0
金属	0.0	0	0
ゴム	5.8	18	13
布	0.0	0	0
紙	0.0	0	0
木材	52.3	150	46
その他人工物	0.0	0	0
人工物合計	185.7	916	323

*個数には破片状のものの個数は含まれていない。



※ 図では上記表における布、紙及びその他を合わせてその他と表記している。

